

研究雑話(134)

障害児教育・動作学誌上実習(52)

藤井力夫

姿勢反射の発達とリズム運動の習熟(32)

かな文字「あ」に潜むもの、運筆方略と呼吸の位相。

前回は、菱形描出が、交互開閉動作、とくにだんだん速くの調節に代表されるような手指の自由を背景にしていることをお話しました。重畳反応を誘発しない手指とは、構造面で第2中手骨骨頭が母指対向運動の

支点としてしっかり機能しているということです。三角形には横線が存在しますが、菱形にはありません。垂線や横線を対角線的に想定できることが求められていたのです。これはもはや「かな文字」の世界です。

「め」が難しい(図A下)。2画目の出だし部から書き始め、中断して1画目を下から左上に書き、2画目の続きを完成。「め」は混乱。

「め」や「あ」にどのような困難が存在するのでしょうか。本児における運筆時の様相は次回に示します。

ここでは大学生の運筆様相から基本を確認します(図B)。筆圧はボールペン・芯受け部に圧力センサ(共和電業、PS-5KB)。呼吸は熱線流量計(ミナト医科学、RF-H1)を使用。

「の」: 中央上から左下への斜線出だし部を呼気終末で描き、中央上へのひねり動作・円弧は、吸気に乗せて展開。見事です。中央上から右下への円弧は呼気で描いています。

「め」: 2画目の運筆は「の」と同じ。1画目、左上から中央下に向けての斜線は、2画目の吸気位相にタイミングを合わせるように、呼気後段・息止めで対応しています。2画目を予想して斜線から描出。回内的なそれで、予期座標が必要です。

「あ」: 2画目以降は「め」の呼吸位相と同じ。1画目、左から右への横線は、2画目の縦線を呼気で描くことを予定していたかのごとく、吸気後半で開始されています。2画目・縦線を予期して、吸気で横線を描出。無意識でなされる事柄です。

「ぬ」: 1画目呼気、2画目吸気は「め」と同等ですが、最後にひねりの円弧で終わることが意識されています。吸気中での呼気対応や、呼気中での吸気対応が、連続した運筆を保障しています。S児が中断した所以です。(北海道教育大学教授)

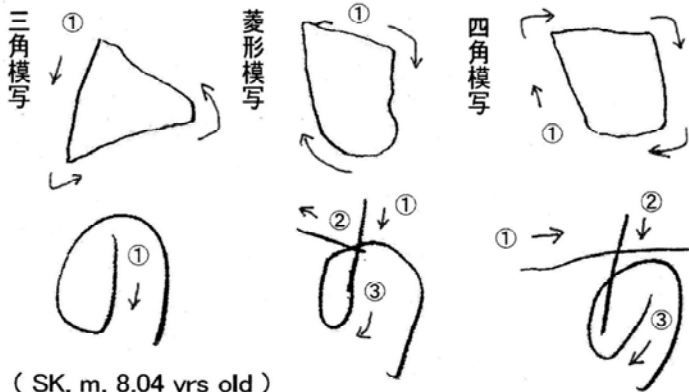
今回は、「あ」に含まれた運筆方略の秘密についてお話したいと思います。

Sくんの場合、「+」と「の」が難しい: 8歳4ヶ月、男、障害児学級・小学2年。三角形、

四角形; 模写可、一筆書き。菱形; 模写困難(図A上)。交互開閉動作; ゆっくり可。速くすると重畳反応。チョコキ; 可。まりつき; 17回程度。コースの模様; 試行後可。階段再生; 積み木・両手把持で傾きを表現。底辺が作れない。

「の」は可。これを基礎に「あ」を書字。「+」と「の」の組み合わせ。

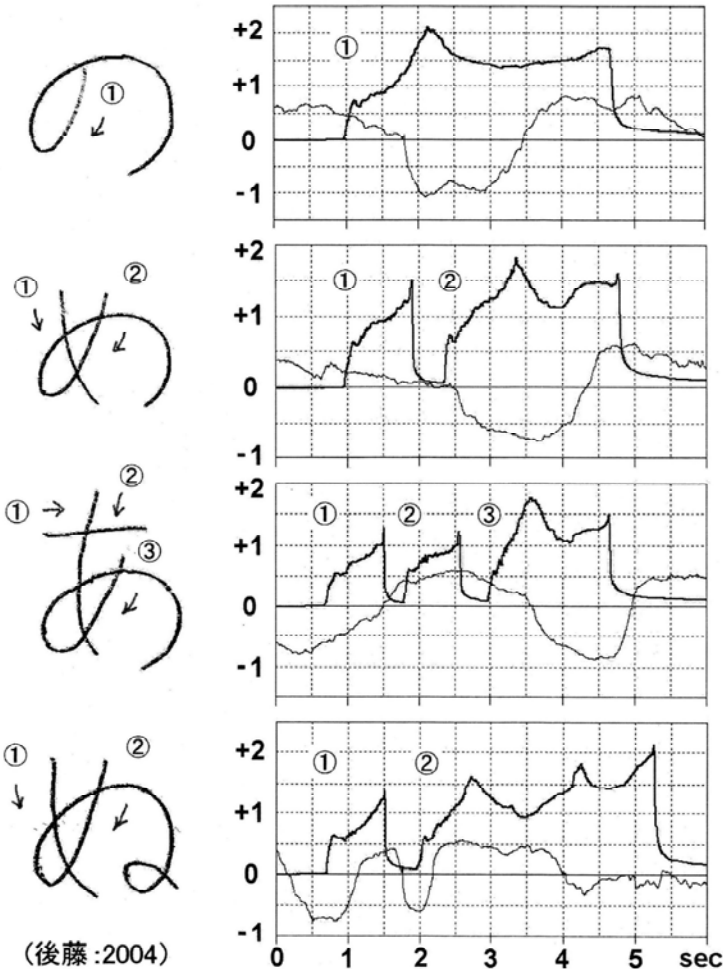
A. Sくんにおける菱形模写と「の」「め」「あ」。



(SK, m, 8.04 yrs old)

B. 垂線を基礎にした運筆方略と呼吸の位相。

被験者: N, f, 22 yrs old. 太線: 筆圧(kgf/cm²)、細線: 呼吸(+呼気、-吸気)。



(後藤:2004)